



会津農林事務所農業振興普及部だより

270号 (令和元年11月12日発行)

発行 ■ 会津農林事務所農業振興普及部

HPへジャンプします

住所 ■ 〒965-8501 会津若松市追手町7-5

電話 ■ 農業振興課：0242-29-5303、地域農業推進課：29-5306

経営支援課：29-5307、有機農業担当：29-5317



手代木久司・美代子御夫妻が「福島県農業賞」を受賞



8月27日に杉妻会館（福島市）で第60回福島県農業賞表彰式が開催され、会津若松市北会津町で

水稲や野菜、花きなどの複合経営をしている手代木久司・美代子御夫妻が、農業経営改善部門で県農業賞を受賞しました。福島県農業賞は、本県農業分野で最も権威ある賞であり、先駆的な生産技術に意欲的に取り組み、模範として将来にわたり

地域農業の振興を支えると認められる優れた経営体等を表彰しています。

手代木御夫妻は、平成11年からいちごの高設栽培を開始し、雪深い会津の厳冬期にいちご狩りができる観光農園に取組みました。平成15年からは、夏も集客できるようパイプハウスでメロンの観光農園を開設しています。また、久司氏は、平成14～26年には指導農業士、平成26～29年には会津若松市農業委員会会長職務代理を務めるなど、地域のリーダーとして真摯に農業に取り組んでいます。さらに、夜間にいちご収穫体験を行う「ナイトいちご狩り」の開催等、斬新なアイデアで集客を強化し、地域に影響を与えています。手代木御夫妻は優れた農業経営を展開しているとともに、地域の維持発展に大きく貢献していることが高く評価され、今回の受賞となりました。

令和元年5月28日にかわしま果樹園 川島幸男さん（おうとう、桃）が、8月28日に遠藤憲二さん（柿）と社会福祉法人 心愛会 障がい福祉サービス事業所 コパン（米）がFGAP認証を取得し、会津地方におけるFGAP認証者が累計14件、農業振興普及部管内では累計7件の認証となりました。川島さんは、6月のさくらんぼの出荷に間に合わせるため、短期間で準備を進めました。遠藤さんは、帳票類の作成に苦労した様子でしたが、整理整頓が日頃から行き届いていました。コパンさんは、農業班に所属する利用者らがより分かりやすく仕事ができるよう仕事の見える化に努めました。

FGAP認証が拡大しています

コパンさんでは、9月6日に手作りの認証書交付式が行われ、利用者を代表して山田幸一さんが認証書を受け取りました。

園芸・農業部門の長谷川豊リーダーは、「以前は、私だけが理解していたことをみんなで理解することができ作業がしやすくなった。胸を張って米を出荷できる。」と、抱負を語ってくれました。農林事務所では、様々な品目、様々な経営体へ、GAPの拡大に向け引き続き推進して参ります。



FGAP認証を取得した
社会福祉法人 心愛会
コパンの皆様

園芸・農業部門の長谷川豊リーダーは、「以前は、私だけが理解していたことをみんなで理解することができ作業がしやすくなった。胸を張って米を出荷できる。」と、抱負を語ってくれました。

農林事務所では、様々な品目、様々な経営体へ、GAPの拡大に向け引き続き推進して参ります。

アグリふくしま革新技术加速化推進事業の動き

アスパラガス現地検討会を開催しました



8月21日、会津若松市の現地実証ほ場において、日射制御型自動かん水装置の導入による露地アスパ

ラガスの高品質安定生産を目的とした「現地検討会」を開催し、生産者や関係機関など約40名が参加しました。

導入装置は、ソーラーパネルで電力を確保し、日射に応じて自動かん水が行われます。実証区では、土壌水分が概ねアスパラガスの栽培に適した状態に保たれており、実証ほ担当農家の小林喜一さんからも、晴天時も土壌が湿っておりしっかりかん水されている印象とお話頂きました。

今後も、引き続き実証ほ担当農家協力の下、実証の効果を確認していきます。

宿根カスミソウの実証ほ内容紹介



花き生産を中心とした農業経営の収益性向上のため、夏秋トルコギキョウと電照による開花促進効果が期待できる宿根カス

ミソウを組合わせた実証を行っています。

宿根カスミソウを電照栽培し、5～6月の収穫の前進化と10～11月の収穫における切り残し解消を図り、7月～9月収穫のトルコギキョウとの労力競合を回避しながら所得の向上を図ります。

現在は4月から電照が開始された宿根カスミソウの収穫が6月に終了し、トルコギキョウの収穫が行われております。また、7月に定植された宿根カスミソウの電照が9月より開始され、10月下旬から収穫予定となっています。

ぶどう現地検討会を開催しました



8月29日、会津若松市河東町の現地実証ほ場で水稲育苗ハウスを活用したぶどう栽培の普及拡大と複

合経営による農業経営の安定を推進することを目的とした「ぶどうの現地検討会」を開催し、生産者や関係機関・団体など43人が参加しました。

実証ほの担当農家である梶内徳仁氏は「ぶどうは水稲と作業が重ならずハウスを有効に活用できる。所得向上を目標に頑張りたい。」と意欲に溢れた気持ちが伺えました。今後は、マニュアル作成や講習会等を通じて広く普及推進を図りますので、興味がある方や水稲育苗ハウスでぶどうを栽培したい方は会津農林事務所農業振興普及部へご連絡ください。

福島酒50号現地検討会

令和元年9月11日に福島酒50号現地検討会を開催しました。福島酒50号は、福島県が開発した新しい酒造好適米で、令和2年度から本格栽培を開始する予定です。

現地検討会は、農業者や酒造業者、関係機関団体職員等約40名が出席し、会津若松市北会津支所ピカリンホールで、担当者から福島酒50号の特徴や栽培方法等について説明後、福島酒50号を栽培した会津若松市下荒井の荒井重隆氏ほ場で、荒井氏から栽培した感想等について説明を受けました。

参加者からは、荒井氏への活発な質問があり、福島酒50号への期待が大きいことが伺われました。



大好評！有機栽培農産物の親子収穫体験会



会津農林事務所と会津オーガニック匠の会等は、8月17日、会津若松市近郊の有機農産物ほ場、および「道の駅あいづ湯川・会津坂下」において県内の親子8組20名と会津地域の有機農業者との交

流会を開催しました。

ミニトマトとエダマメの収穫体験では、「ミニトマトやエダマメがとても新鮮で美味しく、たくさん収穫しました！」、「自分で収穫するのは初めてだったので、楽しかった！」といった声を聴くことができました。

道の駅での交流会では、有機農産物たっぷりのカレーライスやサラダをみんなで味わい、交流会では親子から「会津の有機農産物を応援します！」、「会津が大好きです！」等のエールをいただきました。今後も、このような取組等により有機農産物の販売拡大、生産振興を支援していきます。

おたねにんじん栽培講習会を開催しました

おたねにんじん推進協議会は、6月26日に会津人蔘栽培研究会と共催で、「第1回おたねにんじん栽培研修会」を開催しました。

研究会メンバーと行政機関の総勢約30名が参加し、篤農家である菊地要一氏のほ場で「おたねにんじんほ場の土づくり」の研修を行いました。

菊地氏は「おたねにんじんの土づくりは、播種の2年前に有機物を施用するところから始まっている」と語り、参加者は30度を超す炎天下のもと、熱心に菊地氏の話聞いていました。

おたねにんじんの生産量は平成5年をピークに減少し、平成24年には会津人蔘農業協同組合が解

散となりました。その後、漢方薬や地域特産品としての需要が高まり、清水薬草有限会社を中心に会津人蔘栽培研究会が設立され、おたねにんじん推進協議会との共催で年に3回程度の研修会を実施するなどの栽培支援をしています。



獣害防止対策研修会を実施しました

9月4日
会津若松市
基幹集落セ
ンター（湊町）
で湊町各集
落の代表者
を対象に特
定非営利活
動法人おー



でらすの今野万里子氏を講師に「獣害防止対策研修会」を開催しました。

湊地区では、近年イノシシ等による被害が増加

していることから、本年度集落ぐるみでの獣害対策への取り組みが3集落で開始され、研修会では、その動きを拡大させるために、3集落の取り組み情報も含めて湊地区の現状地図を作成しました。

次に、それを基にグループワークで課題と対策を検討しました。そこで得られた様々な意見や提案を地域ごとに取りまとめ、集落ぐるみによる緩衝帯の整備、防護柵の設置、わなによる捕獲など今後の取組計画を地図に書き加えて完成させました。農業振興普及部では、今後、関係機関と連携して、その方向性を具体化できるよう支援していきたいと考えています。

がんばってます！会津の担い手 若手農業者 眞野 誠 さん



平成28年度に就農した会津若松市の眞野誠さんは、大玉トマトを約15a栽培しています。

眞野さんは数少ない県外から新規参入された方です。農業とは縁のない環境にあった眞野さんですが、田んぼや畑が当たり前で周囲にある会津で生活を始めたことで、徐々に農業に興味を持ち始

め勉強していくうちに、就農を決意しました。

基本的な栽培管理をしっかりと行いながら、省力的な取組として作型の分散や新たな仕立て方の導入、品質向上に向けた栽培品種の検討など、毎年さまざまな試みを意欲的に行っており、経営の発展を目指しています。

さらに、昨年度から6次化の取組も始められ、眞野さんが栽培したトマトを使った「トマトカレー」のレシピ考案、パッケージの制作、ホームページやイベントでの販売まで全てご自身で行っています。今後はさらなる規模拡大を図り、自前の加工施設も作ってみたい、とお話される眞野さんは、常に楽しみながら様々なチャレンジをされており、ますますのご活躍が期待されます。

お知らせ

● 第2回認証GAP研修会

会津農林事務所では、11月20日（水）に福島県農業共済組合会津支所大会議室（湯川町）にて第2回GAP研修会を開催します。

認証GAPの取得に当たり、法令を遵守して取り組む必要があることから、一連の関係法令について理解を深めるとともに、必要な技能講習（救命講習、農作業安全等）を行い、会津地方におけるGAPの普及を一層進めることを目的とし、本研修会を開催します。これから認証取得を目指す方も、既に認証取得した方（従業員の方々）も、是非この機会を御活用願います。（参加無料です。）

● 新規就農セミナー

会津農林事務所では、令和2年1月頃に新規就農育成交流会を開催する予定です。

会津地域の新規就農者の皆さんの悩みや課題が少しでも解決できるよう、経営の専門家による講義、農業士等ベテラン農業者との交流や、さらには新規就農者同士の交流を図る内容を予定しております。

新規就農者の方だけではなく、これから就農を考えている方のご参加も可能です。

なお詳細については、近日中にホームページ等でもお知らせいたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

● 農業普及推進懇談会を開催します

推進懇談会は、生産者代表や関係機関や団体、普及指導協力委員などで構成し、普及活動について御理解いただくと共に、より効率的な活動を展開するための手法などについて意見交換をしています。

10月11日に1回目を開催し、会津若松市の新規就農者の視察と普及指導活動の進捗を検討しました。

2月に開催予定の2回目では、年間の普及指導活動の成果等や普及活動の事例紹介、次年度の「普及指導計画(案)」、普及指導活動に対する意見や要望等についての意見交換をします。

● 農業短期大学の学生募集

将来就農したい方、農業に興味がある方必見！

農業総合センター福島県農業短期大学の令和2年度学生を募集しています。

農業短期大学は水田経営学科、野菜経営学科、果樹経営学科、花き経営学科、畜産経営学科の5つの学科に分かれ、それぞれ実践的な技術力と優れた農業経営力を学べます。

農業技術だけでなく各種資格取得や農産物の商品化、流通、販売や6次化を見据えた加工についても学べます。詳細はホームページをご覧ください。